

牛海綿状脳症（いわゆる狂牛病・BSE）を正しく理解し安心しておいしい国産牛肉を食べよう

この病気は、感染源とされているプリオンと呼ばれる異常型のタンパク質が含まれている肉骨粉などを牛が食べると、脳にスポンジのような小さな穴があき、脳細胞の死滅がおこり行動や運動の異常を示し、立てなくなって死亡する病気です。

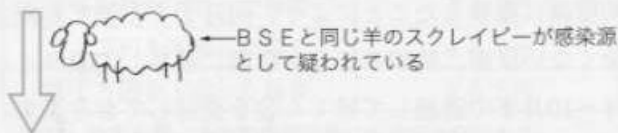
この病気は伝染病ではありませんので、牛同士が接触したり、空気を介して移ることはありません。

1. 牛海綿状脳症に感染したと考えられる経路

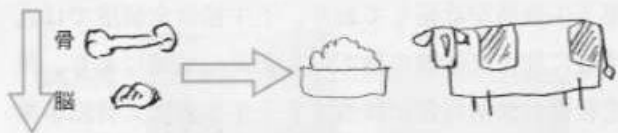
ヨーロッパでは、牛の肉や骨などを粉にした肉骨粉を飼料に添加し給与したことから感染したと考えられます。

日本で発生した牛もヨーロッパから輸入した肉骨粉から感染した疑いがあるとされています。

BSEの感染路



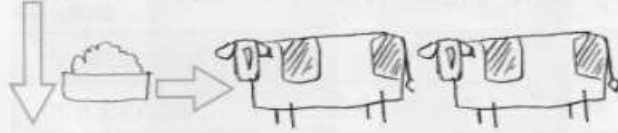
羊の脳や骨を肉骨粉として飼料に入れる



牛にBSEが感染する



牛の脳や骨を肉骨粉として飼料に入れる



さらにBSEが広まる

2. 人に感染する経路

イギリスでは、1997年にBSE病が人にも感染することを否定できないと発表した。

感染源となる異常な型のプリオンは、BSEにかかった牛の脳、脊髄、目及び回腸遠位部などに集まります。この部分を人が食べるとクロイツフェルト・ヤコブ病という病気にかかることがあるとされています。この病気に感染すると10年くらいで発症し、1年くらいで死亡するとされています。

しかし、危険部位である脳・脊髄・目及び回腸遠位部を食べなければ安全です。

3. 牛海綿状脳症感染防止対策

- (1) 9月21日BSEが発生以来、BSEの主な感染源とされている肉骨粉については厳しく規制され、今後は牛が餌として食べることがないように規制焼却処分されることになった。
- (2) これにより牛へのBSEの感染経路が断たれることになりました。また、BSE全頭検査前にと殺されている牛肉も全て国が買い上げ、市場に流通されていません。
- (3) 10月18日からと畜場に搬入されるすべての牛を対象にBSEの検査が行われ、感染牛は全部焼却処分されます。また、健康牛であっても危険部位の脳、脊髄、目及び回腸遠位部分は除去され焼却処分されます。したがって、この病気にかかる心配はありません、安心しておいしい国産牛肉を食べて下さい。
- (4) 私たちが家庭でふだん食べている牛肉や牛乳・乳製品は安全で食品として問題はありません。
- (5) 特定危険4部位

